

校長研修だより174

シリーズ「授業風景2」

～「人権学習」の実際～

2024・11・6 重枝 一郎

「それでは、誰かひとり前に出てきてくれる人はいませんか？」

「はい」

「よし、さわやかに返事したね。前に来て。今から、先生と〇〇君とで一緒にすることを、みんなは〇〇君の立場に立って、見ていてほしい。〇〇君には今から、真剣にしてもらおうから」

ここから、テニスボールを使った、デモンストレーションがはじまりました。

「こころのキャッチボール」という演習

「このテニスボールが、先生の『おはよう』という言葉。このボールを使って、言葉のキャッチボールをします。〇〇君、おはよう！」

「おはようございます」

「おお、いいねえ～。じゃあ、ボールを投げます。先生の『おはよう』がいくよ！〇〇君、おはよう」と言いながら、思い切り強くテニスボールを投げつけ、そのボールは〇〇君に当たってはねかえりました。

会場からは思わず、「エッ～」というどよめきが・・・。

「それでは、〇〇君に聞いてみようか。先生はまだ、〇〇君に謝ってないんだけど、その前に聞きたい。正直に言ってください。どんな気持ちでしたか？」

「ムカッとしました」

「そうだよな。〇〇君、ごめんな、本当に悪かった。今度は、〇〇君が先生にボールを投げて。そのかわり、今、自分が思ったような気持ちに先生がならないように、気持ち込めて、『おはよう』って言いながらそのボールを先生に投げてくれますか、気持ちを込めて」

〇〇君は気持ちを込めて、ボールを下手投げで優しく投げました。

そのボールを、重枝先生は無視して受けとりません。

また、会場からは、どよめきの声です。

重枝先生は、会場の生徒に問いかけます。

「今、〇〇君は気持ちを込めてボールを投げてくれたよね。先生と何が違った？」

「投げ方です」

「そう。先生は上から強く投げたけど、〇〇君は気を遣って、下から優しく投げた。先生は、心は嬉しかったけど、そのボールをわざと無視した。〇〇君、どんな気持ちになりましたか？」

「もう、最悪って気持ちです」

「そうだよな。もう、先生と〇〇君の人間関係は完全に崩れた、まちがいなく。ゴメン、〇〇君。もう一回、さっきみたいに気持ちを込めて、先生にボールを投げて」

〇〇君は不安げな表情で、もう一度、重枝先生に「おはよう」と下からボールを投げました。

重枝先生はそのボールを受けとめ、「おはよう」とボールを下から優しく投げます。

〇〇君の表情が、パッと笑顔になりました。気持ちよく、キャッチボールが続きます。

「はい、〇〇君に拍手」 大きな拍手の中、〇〇君は席にもどります。

「〇〇君が前に出てきてくれて協力してくれて、先生もありがたいなあと思います。大切なのは、相手がどんな気持ちになるかを常に考えないと、『協力』とか『団結』はないということです。そんなことはわかっているとは思いますが、本当にみんなが『したことは理解する』になっているかどうか、ということです」



そして、また、ホワイトボードに書きながらの「次の語り」です。

《次回3に続く…》